

ぼいす

北区飛鳥山博物館だより

2006.9

17



熊野勸心十界図 (津市神戸第一・第二自治会蔵)

世界の果て。意識の彼方。人生のドンツマリ。

極限を感じた中世の人々が夢にまで見た

憧れの参詣地・熊野。

そこは、むきだしの生がギラギラと輝く、

癒しと再生の世界だった。

秋期企画展
「遠くと近くの熊野 中世熊野と北区展」

【会期】 10月21日(土)～12月3日(日) 午前10時～午後5時

【休館日】 毎週月曜日・11月7日(火)・24日(金)

【会場】 特別展示室およびホワイエ

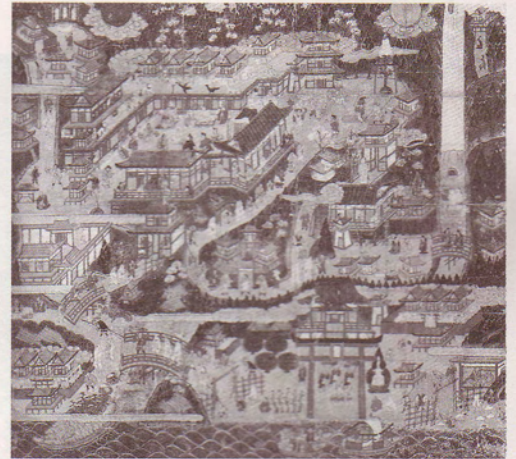
入場無料



大威得明王懸仏 (新宮市阿須賀神社蔵)

遠くと近くの熊野 中世熊野と北区展

なぜ北区に王子神社、紀州神社、熊野神社などの和歌山関係の神社があるのでしょうか？ 六阿弥陀詣で有名な西福寺、無量寺、与楽寺の阿弥陀様が、熊野から漂着した霊木で作られたって本当なの？ 飛鳥山のルートが新宮市の阿須賀神社にあるって、ご存じですか？ なぜ石神井川を音無川とも呼ぶのでしょうか？ これらの謎が今、企画展でアカサレル!!



熊野那智参詣曼荼羅(津市神戸第一・第二自治会蔵)

●企画展付帯事業

(1) 記念講演会「熊野へのまなざし」

- 日時:10月28日(土) 18時30分～20時30分 ■ 会場:北とぴあ さくらホール
- 講師:お茶の水女子大学助教授 岩壁 茂氏・和歌山大学教授 海津一朗氏

(2) シンポジウム「中世の人の一生 熊野勸心十界図」

- 日時:10月29日(日) 13時30分～16時30分 ■ 会場:当館講堂
- 講師:明治大学教授 林 雅彦氏・三重県史編さんグループ 瀧川和也氏・鈴鹿市盛福寺住職 村主亮秀氏

(3) コンサート「岡 美保子の音楽で語る『熊野古道を歩いた いにしえ人の心』」

- 日時:11月11日(土) 13時～14時 ■ 会場:当館講堂
- 演者:グローバル・ミュージック代表 岡 美保子氏

【申込】往復はがきで申込。(1)のみ電子申請可。(詳細は北区ニュース10月1日号をご参照ください。)

【締切】(1)(2)10月21日・(3)10月30日必着 応募者多数の場合、抽選。

ぼいす

博物館で燻蒸すること(続)

従前資料の燻蒸に利用されていた臭化メチルが昨年1月から世界的に製造・使用できなくなったことは本誌13号で述べました。よって当館では代替ガスを検討することにしましたが、それについて少々述べます。各製薬会社で開発されたガスには①酸化プロピレンとアルゴン②ヨウ化メチル③酸化エチレンとHFC134a④フッ化スルフルルの4種類が



収蔵庫の扉の前で作業する様子

知られています。4つの薬剤それぞれに長短があり、決定版というような薬剤はまだ確立されていません。これらの中で投薬量が一番少なく燻蒸の本来の目的である殺虫・殺卵のほか殺菌に対しての薬効が高いものが①でした。検討した結果、昨年は①で実施することにし、結果は良好でした。しかし、この薬剤は引火性が強いことや気化器などの設備投資が新たに必要で、施工会社が少ないことが難点でした。そうした事情も手伝い本年は他の薬剤を試みてみました。使用したのは以前臭化メチルを使用していた会社が後継りに開発した③です。ただ、この薬剤は他の薬剤と比べて非常に多くの投薬量が必要でしたので、ガス抜きに長時間費やしてしまいました。博物館では燻蒸は大切な業務ですが、保存科学の面から本来的に何の薬剤を使用することが望ましいか、今後さらに研究していく必要を感じています。(守)

荒川と交通の歴史

大地・水・人

古屋紀之（当館学芸員）

現代は、日常的な交通はほとんど鉄道か道路かという時代だが、かつて水上交通が生活の中で大きなウェイトを占めていた時代の記憶は無くなりつつあるのではないだろうか。東の武蔵野台地と西の東京低地との境目に位置する北区域も、そこに住む人々のくらしは台地の崖線に平行して流れる荒川との密接な関係を持っていた。明治から昭和にかけて鉄道馬車や鉄道が普及し、陸路が盛んになる以前、東京―川越間の交通は主に荒川が大動脈となっていたのである。荒川にまつわる交通の歴史を少し紐解いてみよう。

明治年間は一区間一銭のいわゆる「ポンポン蒸気船」が登場し、交通の主役をになうようになったが、それ以前は定員30名ほどの「^{ひらた}船船」（通称「川越ヒラタ」）が活躍した。夜船として川越―東京間を17～18時間ほどかけて旅客を運び、料金は明治12年で15銭だったという。

そもそも、荒川を水の道として整備したのは江戸幕府であった。寛永6年（1629）、もともと現在の元荒川ルートで古利根川に合流していた流路を入間川水系につけかえて、隅田川ルートで江戸湾に注ぐという現在の流路の原型をつくった。その目的は流域の水田を洪水から守るということもあったが、川を利用した舟運を開くことが第一義であったようだ。当時、新たに開けた舟運を利用して、秩父の木材が大量に江戸に運ばれたことがこのことを物語っている。

船荷の揚げ降ろし場である「河岸場」は物資の行き交う場所として賑わった。明治時代には荒川流域で実に130ヶ所以上もの河岸場が存在し、現在北区となっている地域には、神谷・豊島・岩淵などに河岸場があった。江戸へは芋・米・味噌・醤油などが運ばれ、逆に埼玉方面には油・塩・石灰などが送られたようだ。

近世の大規模な河川整備以前にも、現在の荒川水系が北武蔵と東京湾を結ぶ交通ルートだったことが、いろいろな資料からわかる。中世には秩父地方で産出する^{りよくでいへんがん}緑泥片岩で作られた板碑が川を降り、逆に西日本や中国産の陶器が川を遡った。

更に古い時代、古墳時代前期（4世紀代）の河川交通も、その足跡が遺跡に残されている。1991年から発掘調査が開始された豊島馬場遺跡（北区豊島）では、東海地方に起源を持つ土器が、周辺の遺跡に比べてはるかに高い比率で出土した。この種の土器が、河川を遠くに見下ろす台地上の遺跡群からはさほど出土せず、川筋に程近い低地に立地する豊島馬場遺跡から多く出土するということは、この遺跡を遺したのが河川交通を最大限に利用した遠隔交易に深く関わった人々であったと言えるだろう。鉄道や車はおろか、乗馬の風習さえなかったこの時代、荒川こそが海岸から北武蔵方面の内陸へ至る、メインストリートだった。

川は交通の歴史とともにゆったりと流れ、人々の生活を見守ってきたのである。



「川口善光寺雨晴」小林清親 明治12年

※対岸に見えるのが川口善光寺。手前は川口に渡る渡し舟だが、奥に川をさかのぼる帆船が見える。

川の上の通勤路～梶原の渡船場跡

白山堀公園の奥に昭和36年(1961)まで堀船と足立区の宮城を結ぶ「梶原の渡し」がありました。明治42年(1909)、堀船に下野紡績の工場が建てられ、渡しは対岸の宮城(旧江北村)から通う娘さんたちの通勤路として利用されていました。隅田川(旧荒川)に沿った北区には、古くから多くの渡しがあり、梶原の渡しには足立区側の工場へ向う通勤者のために設けられた船宮の渡しもありました。

現在、渡し場跡にはいたずら書きがされた説明板があるだけで、残念ながら往年の渡し場の様子は想像もできません。ちなみに、堀船3丁目の酒屋では忘れられがちな郷土を心に残しておきたいということから清酒「梶原の渡し」を販売しています。(未)

梶原の渡し場付近。対岸はマンションや工場が林立しています。



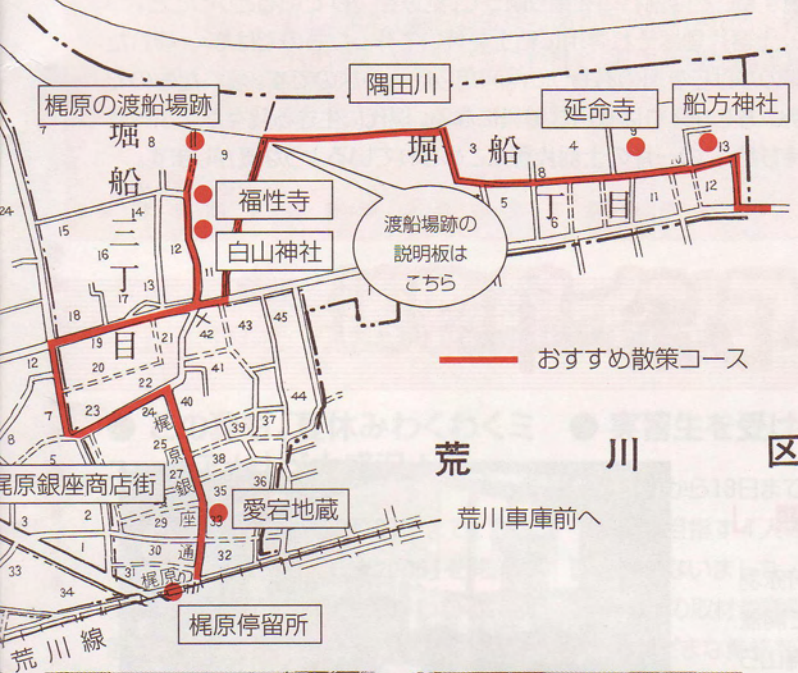
船方神社の奥の十二天塚(右)。碑の背後はすぐ隅田川です。

かなしい伝説とともに～船方神社

神亀2年(725)に創設されたと伝えられていますが、火災で記録が焼失しているため定かではありません。明治12年(1937)に船方神社と改称されましたが、古くは十二社と呼ばれていました。

社殿の右奥には六阿弥陀伝説とつながる「十二天塚」という碑があります。その伝説とは、この地を治めていた豊島氏の娘が対岸の足立氏に嫁いだところ心ない仕打ちを受け、娘は荒川に入水し、それに殉じて12人の侍女も次々と身を沈めたというもの。亡くなった娘たちを供養するため、豊島氏は熊野権現で得た霊木で六体の阿弥陀像を作り祀ったというのが六阿弥陀の由来となっています。このほか、社殿左側には水神宮と煉瓦造りの御輿庫もあります。ここでぜひ地域の伝承や歴史に触れてみてください。(Y)

※娘の実家を足立氏、嫁ぎ先が豊島氏とされる場合もあります。



都電100年の味わい～都電荒川線

明治44年(1911)、飛鳥山-大塚間で開通した路面電車、これが現在残っている都電荒川線の始まりです。当時、王子電気軌道株式会社(通称・王電)によって運行されていたこの路線は、約100年が経過した今も早稲田-三ノ輪橋間を元気に走っています。全区間1時間弱という道のりは、東京の下町観光にもうってつけです。

堀船の住民にとっても貴重な足となっている荒川線ですが、この地区のほぼ中心にあるのが梶原停留所です。停留所のすぐ近くにある和菓子屋さんでは、堀船を代表する銘菓「都電もなか」が大人気。都電型の皮に、モチツとした食感の求肥、そして程よい甘さの餡。これのためだけでも梶原停留所に降りる価値は十分にあります!(田)



梶原の商店街。夏の強い日差しの下、まったりとした空気が流れていました。



梶原停留所近くの和菓子店「明美」。暑い中、街歩きの人たちがたくさん訪れていました。



⑦白山神社の拍犬。現在公園となっている白山堀が梶原堀之内村と船方村の境でした。



⑧福性寺。この付近に梶原政景の墓で、地名の由来となる梶原塚がありました。



⑨梶原銀座商店街の愛宕地蔵。梶原銀座の守り主?



⑩店で梅干を干す作業にいそむ梶原銀座の商店。大ぶりの梅がおいしそう!



⑪梶原銀座でゼンマイ仕掛けの都電のおもちゃを見つけました。



⑫今や東京名物となった都電荒川線。下町の住民に愛されています。

川の上の通勤路～梶原の渡船場跡

白山堀公園の奥に昭和36年(1961)まで堀船と足立区の宮城を結ぶ「梶原の渡し」がありました。明治42年(1909)、堀船に下野紡績の工場が建てられ、渡しは対岸の宮城(旧江北村)から通う娘さんたちの通勤路として利用されていました。隅田川(旧荒川)に沿った北区には、古くから多くの渡しがあり、梶原の渡しには足立区側の工場へ向う通勤者のために設けられた船宮の渡しもありました。

現在、渡し場跡にはいたずら書きがされた説明板があるだけで、残念ながら往年の渡し場の様子は想像もできません。ちなみに、堀船3丁目の酒屋では忘れられがちな郷土を心に残しておきたいということから清酒「梶原の渡し」を販売しています。(未)

梶原の渡し場付近。対岸はマンションや工場が林立しています。



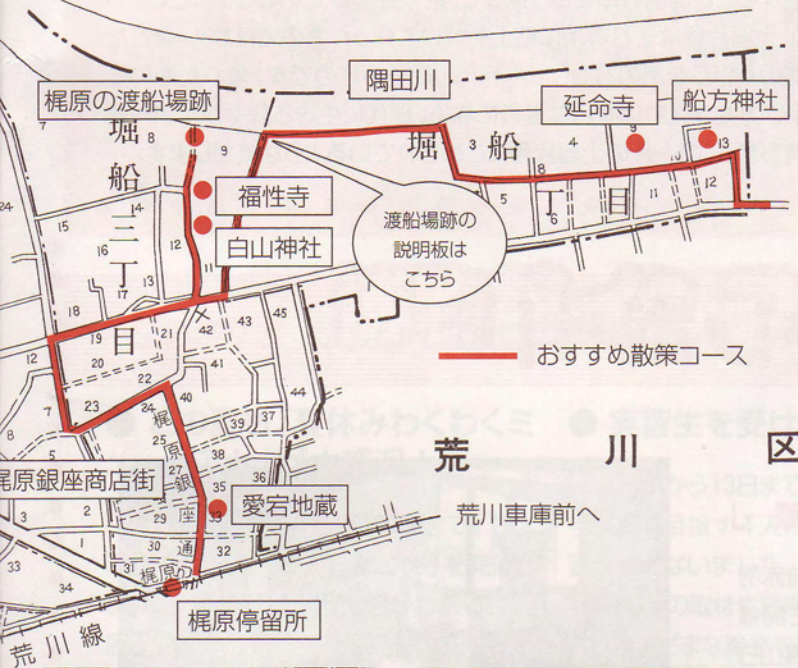
船方神社の奥の十二天塚(右)。碑の背後はすぐ隅田川です。

かなしい伝説とともに～船方神社

神亀2年(725)に創設されたと伝えられていますが、火災で記録が焼失しているため定かではありません。明治12年(1937)に船方神社と改称されましたが、古くは十二社と呼ばれていました。

社殿の右奥には六阿弥陀伝説とつながる「十二天塚」という碑があります。その伝説とは、この地を治めていた豊島氏の娘が対岸の足立氏に嫁いだところ心ない仕打ちを受け、娘は荒川に入水し、それに殉じて12人の侍女も次々と身を沈めたというもの。亡くなった娘たちを供養するため、豊島氏は熊野権現で得た霊木で六体の阿弥陀像を作り祀ったというのが六阿弥陀の由来となっています。このほか、社殿左側には水神宮と煉瓦造りの御輿庫もあります。ここでぜひ地域の伝承や歴史に触れてみてください。(Y)

※娘の実家を足立氏、嫁ぎ先が豊島氏とされる場合もあります。



都電100年の味わい～都電荒川線

明治44年(1911)、飛鳥山一大家間で開通した路面電車、これが現在残っている都電荒川線の始まりです。当時、王子電気軌道株式会社(通称・王電)によって運行されていたこの路線は、約100年が経過した今も早稲田～三ノ輪橋間を元気に走っています。全区間1時間弱という道のりは、東京の下町観光にもうってつけです。

堀船の住民にとっても貴重な足となっている荒川線ですが、この地区のほぼ中心にあるのが梶原停留所です。停留所のすぐ近くにある和菓子屋さんでは、堀船を代表する銘菓「都電もなか」が人気。都電型の皮に、モチツとした食感の求肥、そして程よい甘さの餡。これのためだけでも梶原停留所に降りる価値は十分にあります!(田)



梶原の商店街。夏の強い日差しの下、まったりとした空気が流れていました。



梶原停留所近くの和菓子店「明美」。暑い中、街歩きの人たちがたくさん訪れていました。



⑦白山神社の狛犬。現在公園となっている白山堀が梶原堀之内村と船方村の境でした。



⑧福性寺。この付近に梶原政景の墓で、地名の由来となる梶原塚がありました。



⑨梶原銀座商店街の愛宕地蔵。梶原銀座の守り主?



⑩店先で梅干を干す作業にいそむ梶原銀座の商店。大ぶりの梅がおいしそう!



⑪梶原銀座でゼンマイ仕掛けの都電のおもちゃを見つけました。

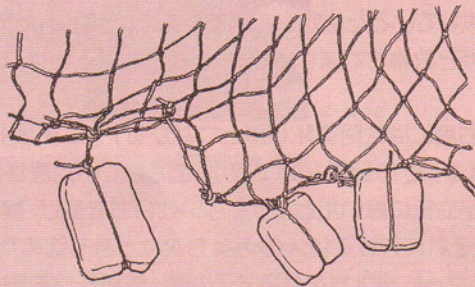


⑫今や東京名物となった都電荒川線。下町の住民に愛されています。

縄文人はリサイクラー —中里遺跡出土土器片錘—



それぞれの上下に刻みがある。



土器片錘の使用例

何の変哲もない土器のかけら。と思いきや、よ〜く見ると何やらちょっと趣が……。そう!普通の土器のかけらに比べて、割れ口がなめらかではないか。では、割れたあとに磨り削ったということか。あっ!二つの相対する辺に刻みがつけられている。これはいったい?そうか!紐をくりつけるための刻みだ。

遺跡からはたくさんの土器が壊れた状態で出土します。土器のかけらを丹念に調べると割れ口が符合して、割れる前の形に接合できます。しかし、元の形に復元できる土器はそう多くはなく、ほとんどが接合できないかけらです。でも、そんなひとつひとつを観察すると、中には変わったものに遭遇します。今回紹介する資料は土器片錘と呼ばれるものです。つまり、土器のかけらを使った網のおもりのことです。中里遺跡では縄文時代の海岸線跡からこの土器片錘が250個以上みついています。その全てが一つとして同じ形、同じ文様のもはありません。共通することは割れ口を磨り削って、刻みをつけているということ。つまり、土器片錘はそれ専用粘土を焼いて作ったものではなく、壊れた土器のかけらを網のおもりに再利用したもののなのです。壊れたものでも使い方をかえれば有用な道具になる。現代に生きる我々が学ぶべき気持ちか、この一片の土器片錘にこめられているような気がします。

(直)

EVENT REPORT イベントレポート REPORT EVENT

魅力発見のスカイトリップ

企画展「Skyview【風の視線】—空撮でみる郷土の景観—」

鳥のように上空から見下ろすといかなる景観が展開するか。以前赤羽北に20年在住し空撮を専門とする写真家豊高隆三氏にご協力を得て開催したのが本展(3月15日~5月7日)です。ゾーニングとして、まず飛鳥山らしさを出すためホワイエに昨年春桜満開時に撮影された東京北郊の花見名所の景観を14点配置しました。展示室の中央には昨年11月紅葉最盛期前後に撮影された区内各所の景観を19点配置し、その外周には旧作から東京及び関東近県の自然的・文化的景観を27点配置しました。大全紙に伸ばしたいずれの作品も冴えた構図と画質の鮮明さが光ります。また、会期中に講演会を2回行いました。1つは3月26日(日)の「記録としての写真」で地理学者の石井寛氏に写真がもつ記録性という観点でお願いしました。前半は地理写真や気候景観についてお話いただき後半は港・中央・渋谷における高度成長期前後の街並変化について自らの映像ライブラリーから解説いただきました。もう1つは5月3日(祝)の「地上1,000フィート・空撮の魅力」で豊高氏にお願いしました。前半は空撮を生業とするまでや実際の撮影現場について伺い後半では列島各地の四季折々の作品を撮影当時の状況を交えて紹介いただきました。本展は飛鳥山を訪れた大勢の方々に観覧いただきました(約17700人)。写真展は初めてでしたが、今までにない切り口として新鮮な映像景観に魅了された旨のアンケートを多くいただきました。作品のクオリティの高さに感謝するとともに今後も魅力ある企画を心がけようと思います。(守)



展示室前には大きな空撮パネルとセスナ機が



多くの人でにぎわう特別展示室

「1931年1月24日」、北区西ヶ原の東京高等蚕糸学校正門前に並ぶ青年たちは、みな真撃さと意欲が感じられるりりしい表情をしています。

明治19年(1886)、西ヶ原に移転した蚕糸試験場は、大正3年(1914)に東京高等蚕糸学校となりました。同校では実践的な教育を重視し、明治以来のわが国の重要輸出産業・蚕業をリードする人材を育成してきました。しかし、敷地不足や周辺の住宅化が進み、関東大震災の打撃も大きかったため、同校は昭和15年(1940)東京・小金井へ移転しています。

写真が撮影された昭和6年当時、同校には毎年150名前後の学生が入学、3年の過程を経て卒業していました。青年たちが何年生なのかは不明ですが、中段中央は植物病理学の教授であり、また前年4月の栽桑学科入学者が、写真と同じ、ちょうど21名と記録されていることから、まだ1年生の生徒であるかもしれません。青年たちの多くは髪を七三にわけて、およそ現代の青年とは

異なる風情ですが、よく見れば下駄履きのバンカラ風あり、ポケットに手をいれて気取る文学青年風ありと、当時の若者気質を垣間見ることができます。自由な雰囲気や伝わる写真とは反対に、当時世の中は不況のどん底で、その年の9月には満州事変も始まっています。その後の時代の変化を思えばなおさら、この青年たちにとって西ヶ原の学窓は特別な思いの残る場所となつたのではないのでしょうか。(企)



東京高等蚕糸学校正門にて

博物館インフォメーション

● この夏も「夏休みわくわくミュージアム」が大盛況!

今年も7月21日から8月31日まで「夏休みわくわくミュージアム★2006」を開催しました。昔の子どもの生活がわかる特別展示「あそべ!そだて!〜むかしのこどもの世界」をはじめ、勾玉作りなど11種22回の講座をおこなったほか、館内に設置した「しらべものコーナー」や「きっすコーナー」も今年は一層充実させました。また、常設展示室を観覧する子どものために用意したコン吉・シルエットクイズが大人気! 正解すると特製シールがもらえるとあって、展示そっちのけでクイズに熱中する姿も…。今年も博物館の熱い夏が終わりました。

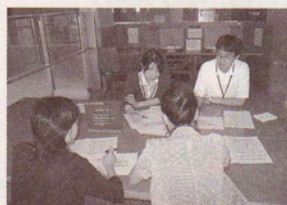


毎年人気の地下鉄車庫見学会



● 実習生を受け入れました!

8月1日から13日までの約2週間、博物館学芸員を目指す4人の大学生が当館で実習をおこないました。強い日差しのなか、「ほいす」の取材や講座のアシスタントなど、毎日さまざまな業務を通して汗を流してもらいました。その成果は「クローズアップ・堀船」にも…。もしかしたら、将来どこかの博物館で会えるかも知れませんね。



打ち合わせをする実習生

● ミュージアム・グッズにまたまた新作登場!

この春から、当館のオリジナル・キャラクター「コン吉」のシールがミュージアム・グッズに加わりました! かわいいコン吉をノートや携帯に貼って楽しんでみてはいかがですか? 1枚100円で発売中!

● 人物往来

本年3月31日をもちまして、任期満了により中村洋子^{ひろこ}学芸員が当館を“卒業”いたしました。5年の間、江戸文化を切り口にした講座や昨秋の企画展「北区の板碑」を担当し、大いに活躍してくれました。本当にお疲れ様でした。また、その後任として4月1日より井上綾子^{りょうこ}学芸員が着任いたしました。学芸員のなかでは一番の若手とあって意欲満々ですので、今後とも何卒よろしくお願いたします。



笑顔でがんばります!

● 北区の昔を伝えるモノや写真を探しています!

博物館では区内で使われていた生活用具や北区に関係する古い文書、また昔の街並みや人々の暮らしがうかがえる写真などを探しています。「こんなもの」と処分してしまう前に、どうか一言お声かけください! ご連絡は03-3916-1133、担当クボノまで。

力

笑顔をこころ
あすかつ子
作に

学芸員リレーエッセイ

博物館いるは歌留多

今年の「夏休みわくわくミュージアム」もたくさん催し物がありました。地下鉄・都電車庫見学会や博物館探検、クイズラリー。もちろん、

手作り教室もたくさんあります。

勾玉、土器、針穴カメラ、竹編み、キツネのお面、回り灯笼。

「みんな来てくれるかな?」「楽しんでもらえるかな?」ちょっと不安になりつつ、試行錯誤を繰り返して毎年の催し物を考えます。

当日、「さあ、一緒に作ってみよう!」子どもたちも真剣。私たちも真剣です。一生懸命作って出来上がった自分だけの作品。「出来た!」「楽しかった!」そう言って嬉しそうにほほえむ子どもたちの姿を見られた時は、今までの不安なんか吹き飛ばしてしまう、一番幸せな瞬間です。

イベントでの触れ合いを通して、一人でも多くの子どもたちと仲良くなりたい、博物館を身近に感じてもらいたい、いつもそう願っています。(綾)

平成18年度下半期の主な催し物

秋 10月~12月

- 講座「中級考古学講座」(10月1・8・15日)
- 秋期企画展「遠くと近くの熊野 中世熊野と北区展」(10月21日~12月3日)
- 講演会「熊野へのまなざし」(10月28日)
- シンポジウム「中世の人の一生 熊野野心十界図」(10月29日)
- コンサート「岡 美保子の音楽で語る『熊野古道を歩いた いにしえ人の心』」(11月11日)
- 講座「歩いて知る公園史」(11月5・12・19日)
- 野外講座「幻の江戸野菜・練馬大根の産地を探る」(11月22日)
- 講座「遺跡探訪」(11月25・26日)

冬 1月~3月

- 講座「歩いて知る北区・冬ものがたり」(12月17日・1月7日・2月4日)
- 小学校対応事業「来て!見て!さわって!むかしの道具」(1月13日~2月28日)
- 講座「中世入門」(3月3日・10日)
- 講座「狐をめぐる文化」(3月4日)
- 講座「中世講座・鎌倉探訪」(3月24日・25日)
- 講座「風流大名の見た江戸時代の北区」(3月31日)
- 春期企画展「東谷戸遺跡の仮面土偶」(3月13日~5月6日)

*催し物名は仮称、()内の実施日は予定です。詳しくは当館発行の「催し物案内」をご覧ください。

利用のご案内

【開館時間】

午前10時~午後5時

(観覧券の発行は午後4時30分まで)

【休館日】

毎週月曜日(国民の休日・振替休日の場合は開館)

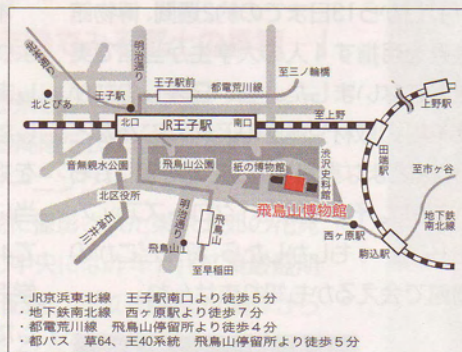
年末年始

国民の休日および振替休日の翌日(土曜・日曜日の場合は開館)

このほかに臨時休館日があります。

【常設展観覧料】

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	720円
小・中・高	100円	80円	240円



- ・JR京浜東北線 王子駅南口より徒歩5分
- ・地下鉄南北線 西ヶ原駅より徒歩7分
- ・都電荒川線 飛鳥山停留所より徒歩4分
- ・都バス 草64、王40系統 飛鳥山停留所より徒歩5分

- ・小学生未満は無料
- ・団体扱いは20名以上
- ・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館、紙の博物館の3館をご覧になれます。

お知らせ

□ 文化の日は観覧無料!

11月3日(金)文化の日は常設展示室を無料で観覧いただけます。ぜひご来館ください。

□ 年末年始の休館日

平成18年12月28日(木)~平成19年1月4日(木)

編集後記

長引いた梅雨に今年の夏は盛り上がり不足といった感じでしたが、当館では例年通り、連日たくさん子どもたちを相手に熱く忙しい夏を過ごしました。8月には4人の博物館実習生も受け入れ、その実習生とともに「クローズアップ・堀船」の取材を行いました。堀船の良さを伝えたいと若い4人が頑張って紹介文を書きましたが、いかがでしょうか? 皆さまの声をぜひお寄せください!(企)

北区飛鳥山博物館だより

ぼいす 17

- 発行 平成18年9月20日
- 編集 北区飛鳥山博物館
〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
TEL. 03-3916-1133
- 発行 東京都北区教育委員会
〒114-0022 東京都北区王子本町1-2-1
TEL. 03-3908-1111 (代)
- 印刷 文明堂印刷株式会社